

HiKOKI

取扱説明書

用途

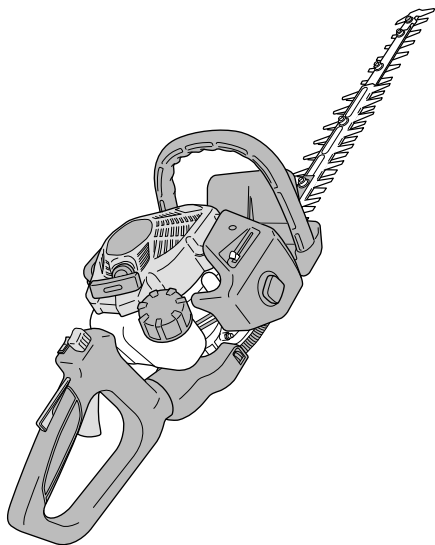
- 各種生垣の刈込み
- 庭木の整枝、せん定



陸内協排出ガス自主規制
適合エンジン搭載

エンジンヘッジトリマ CH 24EAP (50ST) CH 24EBP (62ST)

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



燃料混合比

無鉛ガソリン 2サイクル専用オイル※
25 ~ 50 : 1
※ JASO 規格 FC 級オイル

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

はじめに

警告表示について	1
シンボルマークについて	2
エンジン工具の安全上のご注意	3
本製品の使用上のご注意	8
各部の名称	9
標準付属品	9
仕様	10

使い方

ご使用前の準備	11
燃料の準備	
ブレードケースについて	
リアハンドルの角度調整	
エンジンの始動 / 停止	15
始動方法 / 停止方法	
作業する	21
上手な刈り方	23
庭木の刈り方 / 生垣の刈り方	

その他

保守・点検・整備	25
リコイルスターター / 気化器 / 点火プラグ	
エアクリナー / 燃料フィルター / マフラー / ギヤケース	
ブレードの調整 / ブレードの研ぎ出し / ブレードへの注油	
機体の点検 / 清掃する	
保管方法	30
故障診断	31
ご修理のときは	33
保証書	裏表紙

警告表示について

当該製品に関する安全な使用方法、予見可能な危険の排除、ご使用時の危険回避などを目的に本機および取扱説明書に下記の表示をしております。
これらの表示以外に関しても十分安全に配慮してご使用ください。

危険、 警告、 注意、 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「 危険」、「 警告」、「 注意」、「 注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

 **危険** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を即時に負うことが想定される内容のご注意。

 **警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 **注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

 **注** : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

シンボルマークについて

シンボルマーク	意 味	シンボルマーク	意 味
	取扱説明書を良く読んで内容を十分理解し、誤った使用で不慮の事故を起こさないように注意してください。		取扱説明書または本機に表示の危険、警告、注意などに従って安全に使用してください。
 火気厳禁	引火しやすい燃料を使用するため、本機に火気を絶対に近づけないでください。		保護帽（ヘルメット）、保護メガネ、耳栓、手袋、安全靴など保護具を着用してください。
	本機に火気を近づけないでください。		排気ガスは人体に有害ですので直接吸わないでください。
	本機の近くでたばこを吸わないでください。		マフラーやその周囲は、高温になりますので絶対に触れないでください。
	混合燃料を入れてください。		危険ですので、ブレードに手足を近づけないでください。
	20 時間使用ごとに、グリースを補充してください。		チョークレバーの運転（開）側
	プライミングポンプ （始動用の手動式燃料ポンプ）		チョークレバーの始動（閉）側
	ストップスイッチの運転側		キャブレタのアイドル調整ねじ
	ストップスイッチの停止側		

エンジン工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠危険



火気厳禁

火気に注意してください。

- 燃料の補給はエンジンを停止後、機体が冷えてから補給してください。
- たばこを吸ったり、火気を近づけないでください。
- 燃料がこぼれたら、良くふき取ってください。
- 運転中は燃料タンクのキャップをはずさないでください。
- 燃料、可燃性ガス、その他の可燃物のある場所では使用しないでください。
- 乾燥地帯で使用する場合は、消火用具を準備してください。
爆発や火災、やけどの原因になります。



⚠警告

① 指定された用途以外に使用しないでください。

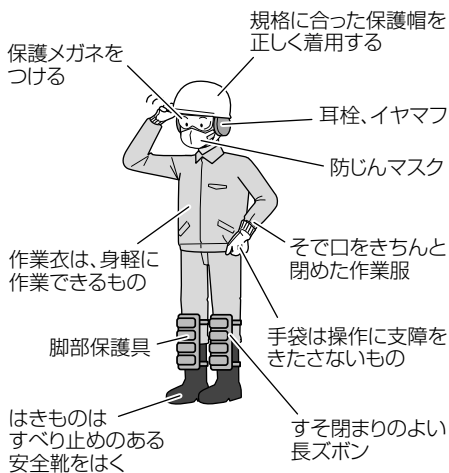
けがの原因になります。

② 保護具を着用し、きちんとした服装で作業してください。

保護具をつけないで作業すると、飛散物が身体に当たるなどけがの原因になります。

③ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているとき、身体の調子が悪いときは、使用しないでください。
- 視覚や敏しょう性、判断力に影響するような酒類、薬物を飲んでいる人は使用しないでください。



⚠ 警告

- ④ 作業はゆとりを持って行ってください。また、身体を冷やさないようにしてください。
- ⑤ 作業者以外、特に子供は近づけないでください。
 - ・エンジン工具に触れさせないでください。
 - ・作業場へ近づけないでください。
 - ・安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑥ 子供や取扱説明書を良く読んでいない人、または取扱いに不慣れな人にはエンジン工具を使用させたり、貸さないでください。

初めて使用する方は、販売店や熟練者に操作方法、注意事項を良く教わって十分習得し、取扱説明書を良く読んでから使用してください。
- ⑦ 本製品は、運転中に電磁波が発生します。この電磁波はペースメーカーなど電子医療機器の作動に影響することがあります。

ペースメーカーなど電子医療機器を装着している方は、本製品を使用する前に医療機器の製造元に使用の可否を相談してください。
- ⑧ 作業に入る前に作業手順を良く考え、事故が起きないようにしてください。
- ⑨ 夜間や天候不良などの視界が悪いときは使用しないでください。また、雨の中や雨上がりのぬれた場所では使用しないでください。

足もとが不安定で、バランスを失い、事故の原因になります。
- ⑩ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント、先端工具（刃具など）以外のものは、事故やけがの原因になるので、使用しないでください。
- ⑪ 始動前に先端工具（刃具など）を点検してください。
 - ・先端工具（刃具など）にひび割れ、傷、曲がりがある物は使用しないでください。
 - ・先端工具（刃具など）が確実に取付けられているか確認してください。先端工具（刃具など）が割れたり、はずれたりすると事故の原因になります。
- ⑫ 始動前に各部を点検してください。
 - ・機体やその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定の機能を発揮するか確認してください。
 - ・可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、グリース、燃料漏れ、電気配線のいたみ、その他、運転に影響するすべての箇所に異常がないか確認してください。

異常がある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- ⑬ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。

エンジンを始動する前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

⚠ 警告

- ⑭ エンジンを開始する場合は注意してください。**
- 機体を平らな場所においてください。
 - 15 m 以内に人や動物を近づけないでください。
 - スロットルレバーがアイドルの位置にあることを確認してください。
 - 周囲にかれ草、紙くず、燃料などの可燃物のある場所で行わないでください。
 - 燃料を補給した場所から 3 m 以上はなれた場所で行ってください。
- 不用意な始動は、けがや火災の原因になります。
- ⑮ ストップスイッチを停止の位置にしたとき、エンジンが確実に止まることを確認してください。**
- ⑯ スターターハンドルを引いてから、遅れてエンジンが始動する場合があるので注意してください。**
- ⑰ 無理な姿勢で作業をしないでください。**
- 常に足もとをしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
 - 足もとの不安定な場所では使用しないでください。
- 転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
- ⑱ 電線、ガス管などが設置してある場所では安全に十分注意してください。**
- ⑲ 回転速度を必要以上に上げないでください。**
- 回転を上げる場合は急に上げずに、徐々に回転を上げてください。
 - 作業の負荷に応じてスロットルレバーを調整しながら使ってください。
- 飛散物が飛び散るなど、思わぬ事故の原因になります。
- ⑳ 次の場合はエンジンを停止し、先端工具（刃具など）の動きが止まるのを確認してください。**
- 使用しない、または修理する場合。
 - 作業場所を移動する場合。
 - 先端工具（刃具など）、アタッチメント、その他機体の点検、調整、交換などを行う場合。
 - 機体に巻き付いたごみや草を取り除く場合。
 - 作業場所の障害物を取り除いたり、作業で発生したごみ、草、切り粉などを運ぶ場合。
 - 機体を身体からはずす場合、機体からはなれる場合。
 - その他、危険を感じた場合、危険が予想される場合。
- エンジンや先端工具（刃具など）が動いたままでは、思わぬ事故が起こります。
- ㉑ 他の人を 15 m 以内に近づけないでください。**
- また、二人以上で作業する場合も、15 m 以上はなれてください。**
- 飛散物が当たるなど、思わぬ事故の原因になります。
 - 他の作業者に危険がないことを確認してから作業してください。
 - 呼び笛を準備するなど、他の作業者との連絡方法をあらかじめ決めておいてください。

⚠ 警告

②② 排気ガスに注意してください。

- 屋内や換気の悪い場所で始動したり、作業しないでください。
- 建物、その他の設備に排気ガスが入らないように注意してください。
ガス中毒や窒息の原因になります。



②③ 作業中は点火プラグキャップ部、高圧コードに触れないでください。

電気ショックを受ける可能性があります。

②④ 作業中はもとより、エンジン停止後もしばらくはエンジン本体、マフラー、特に排気口などに触れないでください。

けがややけどの原因になります。

②⑤ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにエンジンを止めて、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。

そのまま使用すると、故障やけがの原因になります。

②⑥ 誤って機体を落としたり、ぶつけたりしたときは、破損や亀裂、変形がないことを良く点検してください。

破損や亀裂、変形があるとけがや火災の原因になります。

②⑦ 機体を車で運搬する場合は、燃料タンクから燃料を完全に抜き取ってください。また、機体が動かないように固定してください。

火災や事故の原因になります。

⚠️ 注意

- ① 本機は 2 サイクルエンジンですので、混合燃料 25 ～ 50 : 1 (無鉛ガソリン : 2 サイクル専用オイル※) を使用してください。
※ JASO 規格 FC 級オイル
ガソリンだけでエンジンをかけたり、混合比を間違えるとエンジンが故障する原因になります
- ② 使用後に機体を運搬したり、保管する場合は、先端工具 (刃具など) をはずすか、先端工具にカバーをかぶせてください。
先端工具 (刃具など) が身体に触れて、けがの原因になります。
- ③ 機体は注意深く手入れしてください。
 - 安全に効率良く作業していただくために、先端工具 (刃具など) は常に手入れし、刃具類は良く切れる状態にしてください。
 - 付属品やアタッチメントの交換、機体の手入れ、注油などは取扱説明書に従ってください。
- ④ 修理は専門店に依頼してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。
- ⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - ストップスイッチは停止の位置にして保管してください。
 - 燃料を抜き取り、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかるところに保管してください。
- ⑥ 燃料はガソリン専用の容器に入れ、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかるところに保管してください。
- ⑦ 警告ラベルが見えなくなったり、はがれたり、不鮮明になった場合は新しい警告ラベルと取換えてください。
警告ラベルはお買い求めの販売店に依頼してください。
- ⑧ 作業に当たって、その地域の規則や取り決めがある場合はそれに従ってください。



○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

本製品の使用上のご注意

先にエンジン工具として共通の注意事項を述べましたが、エンジンヘッジトリマとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

- ① ブレードやガードが確実に取付けられているか、損傷や変形などの異常がないか確認してから使用してください。

異常がある場合は、お買い上げの販売店に修理・交換を依頼してください。異常があるまま使用すると、けがの原因になります。

- ② 動いているブレードに、絶対に触れないでください。

髪の毛や衣服なども触れないように注意してください。

- ③ ブレードに針金やつる、つたなどが巻き付いたときは、すぐにストップスイッチを押してエンジンを停止し、ブレードの動きが停止してから取り除いてください。

エンジンがかかったままであったり、ブレードが停止していない状態で取り除こうとすると、けがの原因になります。

- ④ 作業中はフロントハンドルと、リアハンドルを確実に保持し、両足を開き安定した姿勢で作業してください。

また、足場の悪い場所で作業するときは、周囲を整備し足場を確保してください。

安定しない姿勢での作業は、けがの原因になります。

- ⑤ 低位置の作業をするときは、自分の足もとに十分注意してゆっくりと作業してください。

自分の足を傷つけるなど、けがをする恐れがあります。

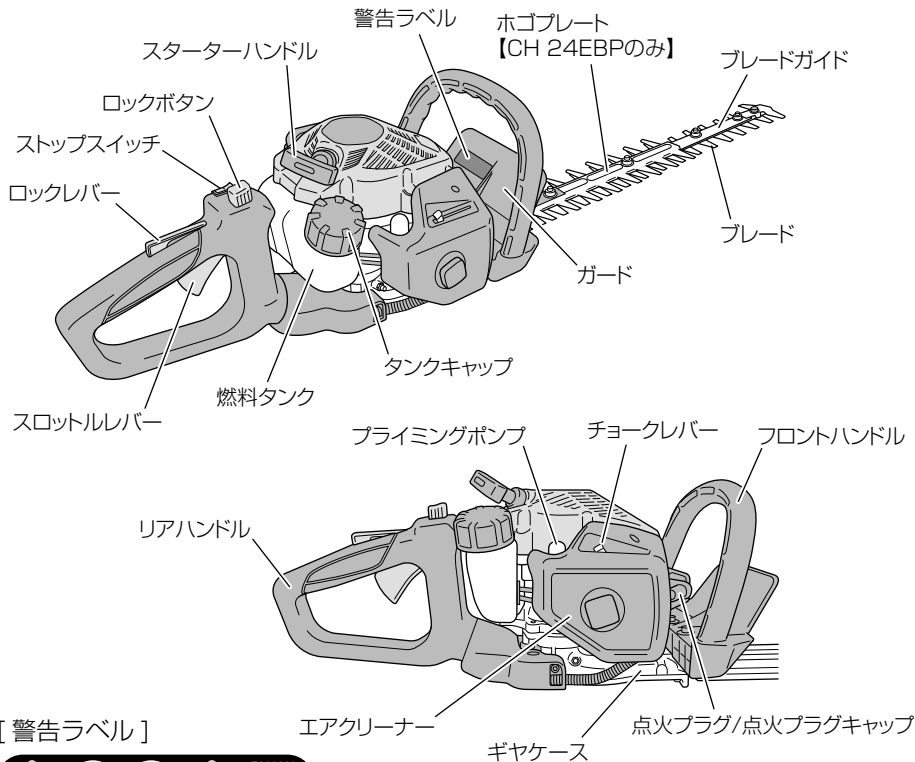
⚠注意

- ① 作業する箇所に、針金やひもなどがいないか確認し、ある場合は取り除いてから作業してください。

- ② 刈込み作業以外にブレードを動かしたり、水中または根の這った石垣、ブロック塀、つたやつるの多いところでは作業しないでください。

- ③ 1日の作業時間は2時間以内にしてください。疲労は事故の最大の原因です。長時間の連続使用を避け、30分作業したら5分以上休憩してください。

各部の名称

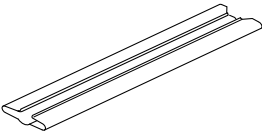
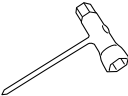


[警告ラベル]



標準付属品

下記の部品が標準付属品として同梱されていますので確認してください。

ブレードケース 	1 個	両口ボックススパナ (19 mm × 10 mm) 	1 個
--	-----	--	-----

仕 様

形名（仕様） 項 目		CH 24EAP (50ST)	CH 24EBP (62ST)
エ ン ジ ン	型 式	強制空冷 2 サイクルガソリンエンジン	
	排 気 量	23.9 mL	
	アイドリング回転数	2,800 ~ 3,200 min ⁻¹	
	エンジン最高回転数	9,500 min ⁻¹	
	気 化 器	ダイヤフラム型（プライミングポンプ付）	
	点 火 プ ラ グ	CHAMPION RCJ6Y または NGK BPMR 7A	
	使 用 燃 料	混合燃料 無鉛ガソリン： 2 サイクル専用オイル（25 ~ 50 : 1） 【JASO 規格 FC 級オイル】	
	タ ン ク 容 量	280 mL	
ク ラ ッ チ 形 式		自動遠心クラッチ	
減 速 比		1 : 5.33 (9T / 48T)	
潤 滑 方 式		グリース潤滑	
ブ レ ー ド 全 長		500 mm	620 mm
刈 幅		444 mm	554 mm
ブ レ ー ド ピ ッ チ		30 mm	35 mm
寸法（全長×全幅×全高）		942 × 244 × 210 mm	1,059 × 244 × 214 mm
質 量		4.3 kg	4.5 kg

※ 質量は、燃料、ブレードケースを除いたものです。

ご使用前の準備

● 燃料の準備

⚠ 危険

- 燃料の補給はエンジンを停止後、機体が冷えてから補給してください。
- 燃料給油中はタバコを吸ったり、その他の火気を絶対に近づけないでください。
火災、やけどの原因になります。
- 給油中に燃料をこぼしたときは、良くふき取ってください。

⚠ 警告

- 給油前に、ヘッジトリマ本体、給油用の容器、作業者に帯電している静電気を除去するため、多少湿り気のある地面に接地してください。
- 給油は風通しの良い場所で行ってください。
- エンジンを停止してもマフラーなどが熱くなっていますので、かれ草などの燃えやすい所へ置かないようにしてください。

注

- 燃料は、必要以上に混合しないで、作業に必要な量を準備してください。
1 か月以上経過すると揮発したり、腐敗してエンジンが故障する原因になります。
- 燃料はガソリン専用の容器に入れて、火気のない場所で保管または運搬してください。
- ガソリンだけで絶対に運転しないでください。
エンジンが故障する原因になります。
- 混合ガソリンは、良く振って（混合して）から給油してください。
ガソリンと 2 サイクル専用オイルが分離していることがあります。

燃料を準備するときは

25 ～ 50：1(無鉛ガソリン：2 サイクル専用オイル※) の割合で混合の上、使用してください。

※ JASO 規格 FC 級オイル

混合量は表を参考にしてください。

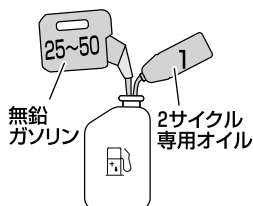
別容器で良く混ぜてから燃料タンクに入れてください。

こぼれないように、燃料タンクの口元一杯まで入れないで 8 分目程度にしてください。

2 サイクル専用オイルの混合量

ガソリン (L)	2 サイクル専用オイル※ (mL)	
	50：1	25：1
0.5	10	20
1.0	20	40
2.0	40	80
4.0	80	160

※ JASO 規格 FC 級オイル

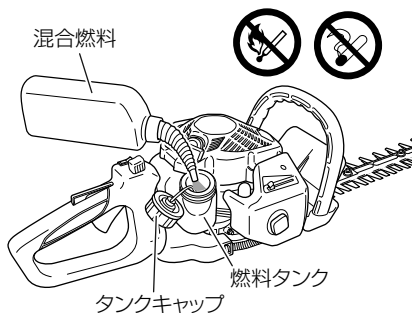


燃料を入れるときは

混合燃料を燃料タンクに入れてください。タンクキャップを開けるときは、ゆっくりと行ってください。急に開けると、内圧でタンク内に残っていた燃料が吹き出す場合があります。

注 燃料タンクキャップは、確実に取付けてください。

給油後に、キャップから燃料が漏れていないことを確認してください。



● ブレードケースについて

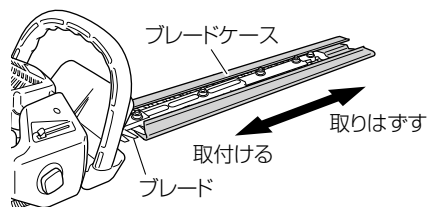
⚠ 警告

ブレードケースの取付け・取りはずしの際は、必ずエンジンを止めてください。

本機を使用しないときは、けが防止のため必ずブレードケースをブレードに取付けてください。

⚠ 注意

ブレードケースの取付け・取りはずしの際は、ブレードに手や、体が触れないように、ゆっくりとした動作で行ってください。
けがの原因になります。



●リアハンドルの角度調整

⚠警告

リアハンドルの角度調整はアイドルリング状態、またはエンジンを止めてから行ってください。

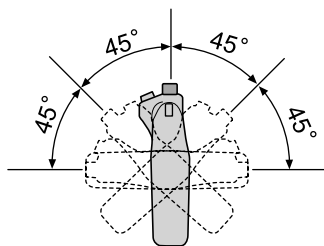
万一の事故を防止するため、ロックボタンを押した状態（固定解除）ではスロットルレバーを引けない構造になっています。

作業状態に応じてリアハンドルを5か所（45°ずつ）固定させることができます。

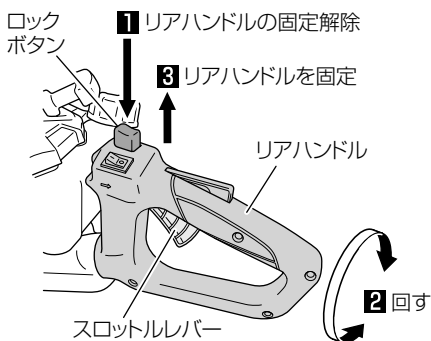
1 ロックボタンを押し、リアハンドルの固定を解除します。

2 リアハンドルを回します。

3 固定させたい位置でリアハンドルを固定させてください。
（「カチッ」と音がしてロックボタンが上がります。）



リアハンドル

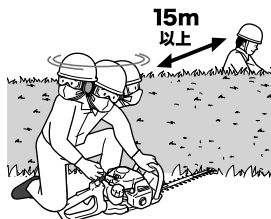


エンジンの始動 / 停止

⚠ 警告

エンジンを始動する場合は次のことに注意してください。

- 機体を平らな場所においてください。
- 15 m 以内に人や動物を近づけないでください。
- スロットルがアイドルの位置にあることを確認してください。
- 周囲に落ち葉、かれ草、おがくず、燃料などの可燃物のある場所で行わないでください。
- 燃料を補給した場所から 3 m 以上はなれた場所で行ってください。
不用意な始動は、けがや火災の原因になります。
- エンジンが始動すると、ブレードが動き始めることがあります。ブレードが地面、または障害物などに接触していない事を確認してから始動してください。
- 室内・トンネル内・ビニールハウス内など、換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。
人体に有害な一酸化炭素中毒になる恐れがあります。
- 運転中および停止直後は、エンジン本体やマフラー周辺部に触れないでください。
やけどの恐れがあります。
- 運転中は点火プラグやプラグコードに手を触れないでください。
感電によるショックを受けることがあります。
- ハンドルに付着した燃料やオイル、汚れは使用前に良くふき取ってください。
手が滑ってけがの原因になります。



エンジン始動の予備知識

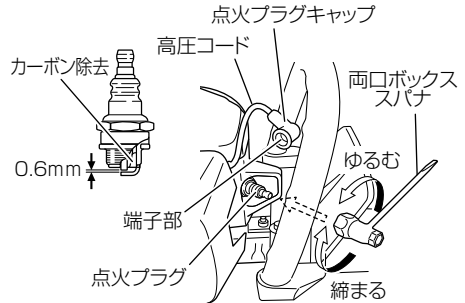
エンジンがかかりにくいときは…

チョークレバーを始動の位置のまま、スターターハンドルを何度も引き続けると、点火プラグの電極が燃料をかぶってエンジンが始動しなくなることがあります。

このような場合は、点火プラグを取りはずして、電極を乾かしてから、始動操作を行ってください。

(詳細は P.26「保守・点検・整備」の「点火プラグ」参照)

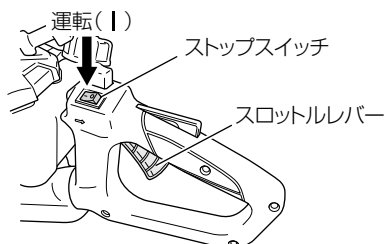
注 エンジンが高温のときは、冷めてから点火プラグをはずしてください。



● 始動方法

1

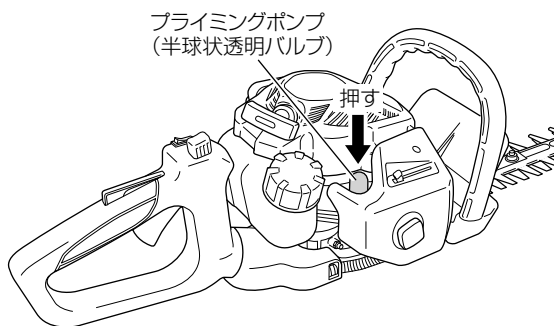
スロットルレバーがアイドルの位置にあることを確認して、ストップスイッチを運転 (I) の位置にする



2

プライミングポンプを繰り返し押す

プライミングポンプが燃料で満たされるまで、プライミングポンプを繰り返し押してください。(目安 10 回)



エンジンが冷えている場合

- 初めて使うとき
- しばらく保管してから、再び使用するとき

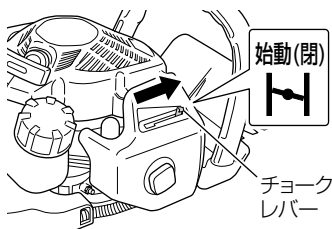
エンジンが暖まっている場合

- 燃料給油など、一時小休止後

エンジンが冷えている場合

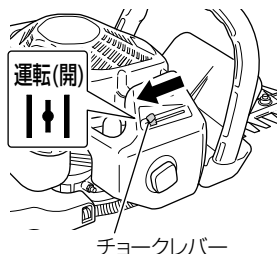
3

チョークレバーを
始動（閉：）の位置にする



エンジンが暖まっている場合

チョークレバーを
運転（開：）の位置にする



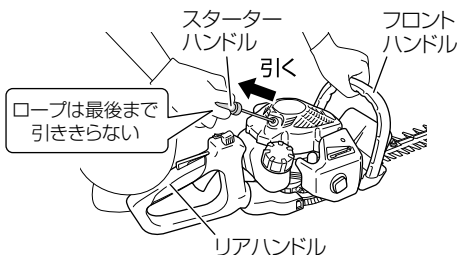
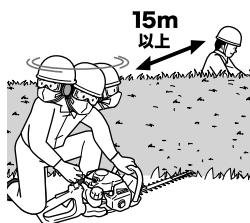
⚠ 警告

- スロットルレバーを握ったまま、エンジンを始動しないでください。
エンジン始動と同時にブレードが動き出すことがあり、事故の原因になります。
- スターターハンドルを引いてから、遅れてエンジンが始動する場合がありますので注意してください。

4

左手でフロントハンドル部をしっかり押さえ、右ひざでリアハンドル部を押しつけてから、スターターハンドルを数回引く（10回くらい）

引いた後ハンドルを手放さないで、ロープをゆっくり戻してください。



エンジン始動

かからない場合は、1～6の操作を行ってください。

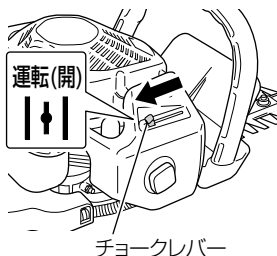
注 エンジン停止後に再始動ににくい場合は、エンジンが冷えるのを待って再始動してください。

エンジンが冷えている場合

5

エンジンがかかりはじめたら・・・ (ポン、ポンという爆発音がします)

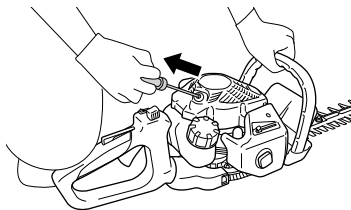
チョークレバーを運転 (開：↑↓) の位置にします。



- 注**
- エンジンがかからないときは、ストップスイッチが停止側 (○) になっていないか確認してください。
 - チョークレバーを始動 (閉：↑) 位置のまま、スターターハンドルを引き続けると、燃料を吸い込みすぎて始動しにくくなります。

6

エンジンが止まったら、 再度スターターハンドル を引く



エンジン始動

使用前に、スロットルレバーを放した低速運転 (アイドリング運転) で、2～3 分間暖機運転をしてください。かからない場合は、①～⑥ の操作を行ってください。

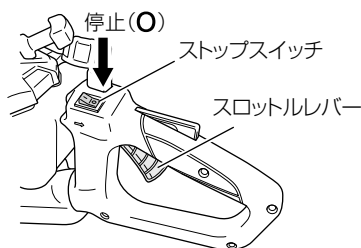
- 注**
- 暖機運転中にエンジンが停止するときは、アイドリングが低すぎます。また、エンジン始動と同時にブレードが動き始めるときは、アイドリングが高すぎますので調整してください。
(P.26「気化器」参照)

●停止方法

⚠警告

- 緊急時は、直ちにエンジンを停止してください。
- 完全に停止するまで、ブレードに触れないでください。
- スロットルレバーを放して低速運転（アイドリング運転）にしたとき、ブレードが止まるのを確認してください。
ブレードが止まらない場合は、アイドリングの回転数が低くなるように調整してください。（P.26「気化器」参照）
- 機体からはなれるときは、必ずエンジンを停止してください。
- エンジン停止後もマフラーや排気口が熱いので、かれ草など燃えやすい所へ置かないよう注意してください。
- 移動時または機体を地面に置くときは、思わぬ事故を防止するため、エンジンを停止してください。

- 1 スロットルレバーを放して、低速運転（アイドリング運転）にします。

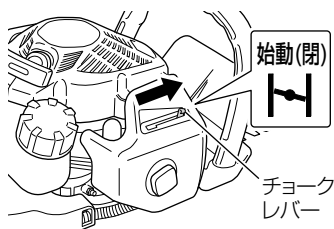


- 2 ストップスイッチを停止「O」の位置にすると、エンジンが停止します。

エンジンが停止しない場合

ストップスイッチやリード線などの故障で、ストップスイッチを停止位置にしてもエンジンが停止しない場合は、チョークレバーを始動（閉：H）の位置にしてください。

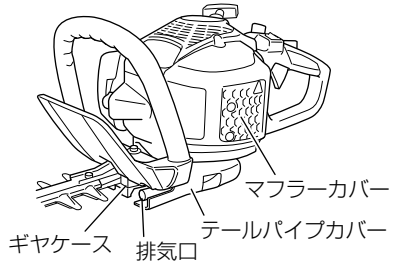
エンジンは失速し、停止します。
ストップスイッチでエンジンが停止しない場合は、直ちに使用を中止して、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。



作業する

⚠警告

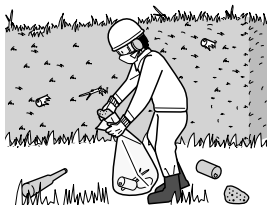
- 使用前に、必ずブレードを点検してください。
ヒビ、割れ、曲がりがある場合は使用しないでください。
- 保護具を着用してください。
- 針金や鉄板など硬いものを切らないでください。
故障やけがの原因になります。
- 使用中は、必ず両手でしっかり持って作業してください。また、常に足元をしっかりさせ、スリップなどで身体のバランスを失わないように十分注意して使用してください。
- 急傾斜地では使用しないでください。また、木に登っての作業など不安定な場所では使用しないでください。
転倒して、けがの原因になります。
- 使用中はブレードに手や体を近づけないでください。
- 本機が肩より高くなるような姿勢で使用しないでください。
- 他の人を 15 m 以内に近づけないでください。
また、二人以上で作業する場合も、15 m 以上はなれてください。
- エンジンをかけたまま本機を放置しないでください。
- 運転中および作業直後は、落ち葉やかれ草、おがくず、燃料など、燃えやすい物の近くに置かないでください。
- 作業中はもとより、エンジン停止後もしばらくエンジン本体（特にマフラーカバー、テールパイプカバー、排気口）やギヤケースなどに触れないでください。
やけどやけがの原因になります。
- 排気ガスは人体に有害です。換気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。
また、作業しないでください。
- 持ち運びの際は、必ずエンジンを停止し、ブレードが動いていないことを確認してください。



1 作業場所を整備する

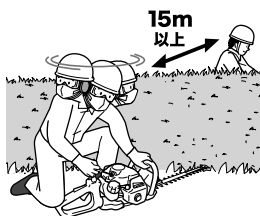
ブレードにかみ込んでけがや事故の原因になりそうな物は、あらかじめ取り除いてください。

また、作業時足場となる部分については、不安定であったり、つまずいて転んだりする物がないように整備してください。



3 エンジンを開始する

- 周りに人がいないことを確認してから始動してください。
- ブレードが地面や障害物に触れていないことを確認してください。
(P.15「エンジンの始動 / 停止」参照)



2 ブレードケースを取りはずす

ブレードに触れないようにゆっくりと引き抜きます。

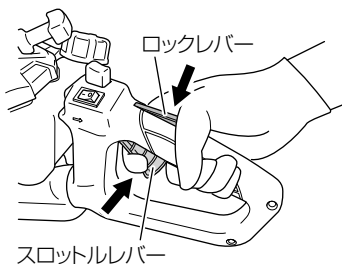
(P.13「ブレードケースについて」参照)

4 作業する

ロックレバーを押しながら、スロットルレバーを軽く引くと、ブレードが動き始めます。

スロットルレバーをいっぱいに引いて作業してください。

注 スロットルレバーは、ロックレバーを押し込んだ状態でしか引けない構造になっています。



上手な刈り方

⚠ 警告

- 太い枝（直径 6 mm 以上）は、あらかじめせん定バサミで切っておいてください。

能力以上の負荷を加えると、故障の原因になります。

- 太い枝などをかみ込んだ場合は、直ちにエンジンを停止してください。ロックさせたままにすると、故障の原因になります。

- 高い庭木には、しっかりしたはしごや脚立を用意してください。

- 芝生や雑草の刈込みをしないでください。故障やけがの原因になります。

せん定は、年に 2 回を目安に行うことをおすすめします。

1 回目は、春から梅雨までの時期に太い枝を抜いたり、強く刈り込むせん定を行います。

2 回目は、その後に伸びた枝をカット（整枝）するよう軽く刈り込みます。

注 ●庭木の種類によっては、せん定能力を超える場合があります。

- 太めの枝をななめにせん定すると、切断する面積が大きくなり能力を超える場合があります。

- 太い枝は、ブレードを軽く押し当てるようにして切断してください。

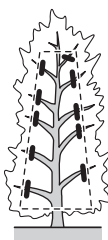
一般的な庭木・生垣の刈込みスケジュール

(月)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
花や実を 観賞する 生け垣				↔ 開花期 ↔ 刈込み期						↔ 整枝期 ↔ 果実鑑賞期		
緑を 楽しむ 生け垣			↔ 新緑発生期 ↔ 刈込み期					↔ 新緑発生期 ↔ 整枝期				

●庭木の刈り方

- 直径 6 mm 以上の枝は、あらかじめ仕上げる樹姿の 10 cm くらい内側をせん定バサミで刈込んでおきます。

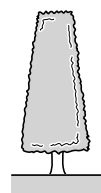


- 玉ものは、上の方を深く刈り、下の方は浅く刈ります。

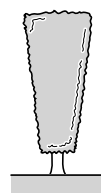


- 密生した枝葉については、下から上に向かって刈込み、お好みの形状に仕上げます。

よい刈込み



悪い刈込み

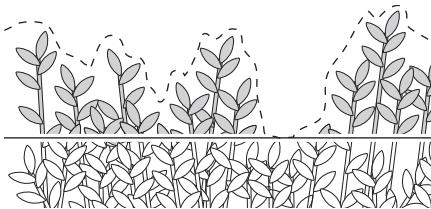


上の方は思い切って刈込む

徒長枝を刈込む

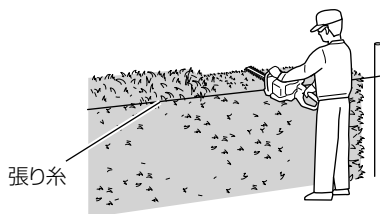
●生垣の刈り方

- 生垣の上面を平らに刈るときは、少しはなれたところから見て、一番低いところの葉が残るラインを基準にして刈りすすめます。



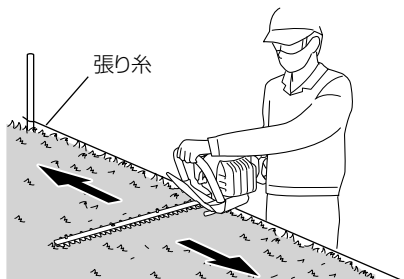
- とくどき、休憩を兼ねて作業を中断し、全体のバランスを少しはなれたところから確認してください。

- 張り糸をつけて、これを目安にして刈込むと、角部（コバ）を鋭角に仕上げやすくなります。



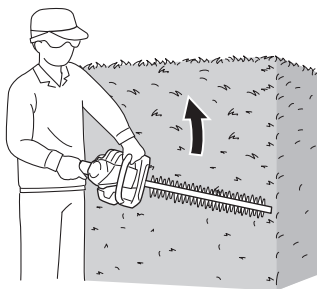
- 生垣の上面を右から左（または左から右）へ移動しながら刈込みます。

- 側面は、下から上に向かって移動しますと、刈込みやすく、きれいに仕上がります。

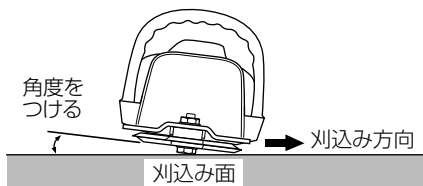


- 背の高い生け垣を刈るときは、足下の注意を怠らないようにして、ゆっくり刈りすすんでください。

- 高い壁面状の生垣の側面を刈るときは、刈った枝や刃が自分に当たらないように、体の少し横側でなでるように刈ります。



刈込みを行う場合、刈込み方向（ブレードの進行方向）に対して刃先を少し下げてください。枝の導入が良く、きれいに刈込めます。



保守・点検・整備

⚠ 警告

- 保守・点検・整備の際は、必ずエンジンを止めて機体が冷えた状態で行ってください。また、点火プラグキャップをはずしてください。
- 保守・点検・整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。
- 不具合箇所が発見されましたら、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

使用前の点検・整備について

製造時の振動レベルを劣化させないため、作業を開始する前に必ず機体各部の点検・整備を行い異常がないことを確かめてください。

- ① フロントハンドル、リアハンドルの変形、破損
- ② フロントハンドル、リアハンドル取付部のゆるみ、破損
- ③ 各部のボルト、ナットなどのゆるみ、破損

毎月の点検・整備

- 点火プラグを掃除する。
- 燃料フィルターを掃除する。
- マフラーの排気口を掃除する。
- リコイルスターターに付着したごみを除去する。
- クリーナースポンジを掃除する。

毎日の点検・整備

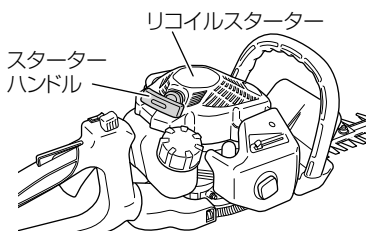
- ブレードガイド、ホゴプレートに損傷、変形がないか点検する。
- ブレードにヒビ、割れ、曲がりがないか点検する。
- 機体やその他の部品に損傷がないか点検する。
- ブレードを固定するナットが、十分に締付けられてるか点検する。
- 各部のボルト、ナットなどにゆるみがないか点検する。
- 燃料タンク、燃料タンクキャップなどから燃料漏れがないか点検する。

●リコイルスターター

⚠警告

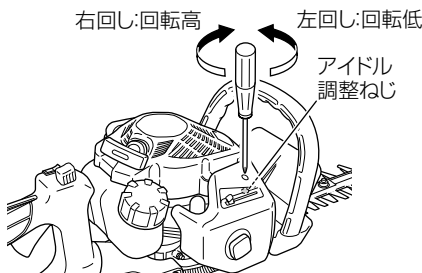
危険ですので、リコイルスターターを分解しないでください。

スターターハンドルが軽く引けない場合や、スターターハンドルを引いてもエンジンが始動しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



●気化器

- 気化器の調整は、工場出荷時に済んでおりますので、アイドル回転数の調整以外は行わないでください。
- アイドル回転数が高すぎる時（スロットルレバーがアイドルの位置でブレードが動いているとき）または低すぎる時（エンジンが停止するとき）は、アイドル調整ねじで調整してください。（右回しでアイドル回転数が高くなり、左回しで低くなります）



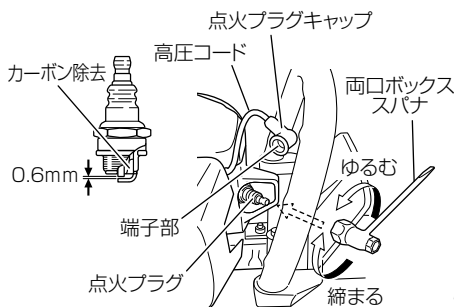
●点火プラグ

- 点火プラグは指定のものを使用してください。（P.10「仕様」参照）
- 最良の運転状態では点火プラグの電極が茶褐色に乾燥しています。電極のすき間は 0.6 mm です。
- カーボンが付着している場合は、ワイヤブラシなどで掃除してから使用してください。
- プラグ取付け時は、まず指でねじこみ、最後に付属のボックススパナで締付け、しっかり取付けてください。

注 点火プラグをはずすときは、エンジン内部にごみが入らないように注意してください。

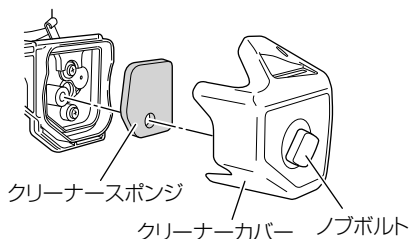
⚠警告

機体金属部に点火プラグを接触させ、スターターハンドルを引くなどの火花チェックはしないでください。感電や燃料などへの引火によるけがや火災の原因になります。



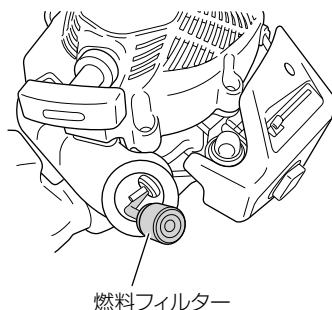
● エアクリーナー

- クリーナースポンジが汚れ、目づまり状態になると出力低下や始動困難になります。クリーナースポンジは清掃し、汚れを落として目づまりを防いでください。
- クリーナースポンジを掃除するときは、中性洗剤で油分等を取り除いた上で洗剤を洗い流し、乾燥させてから取付けてください。
- クリーナースポンジは、ノブボルトをゆるめクリーナーカバーをはずすと、取り出せます。



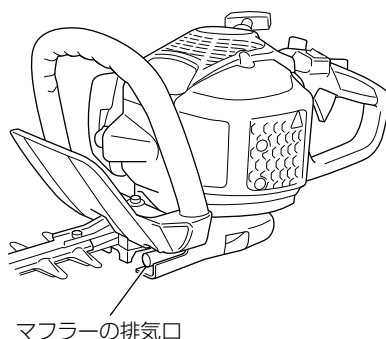
● 燃料フィルター

- 燃料フィルターがつまるとガソリンが吸い込まれずエンジンの回転不調の原因となりますので、時々点検してください。
- 汚れているときは、針金などで燃料給油口から引き出し、ごみを取り除いてから燃料給油口に戻してください。(汚れのひどいときは交換してください)



● マフラー

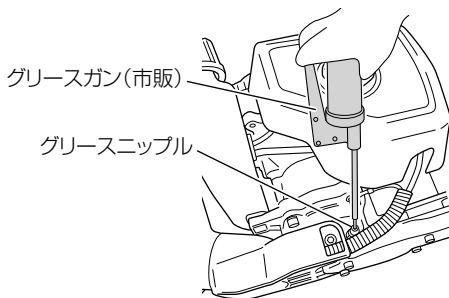
長時間運転しますと、マフラーの排気口の内部にカーボンが付着し、出力低下の原因になります。時々、針金などで掃除してください。



●ギヤケース

注 本機にはグリス流出防止機構を備えています。ブレード摺動部より若干流出することがありますが、故障ではありません。

- ① 20 時間使用ごとにグリスを補充してください。
- ② ギヤケース横のグリスニップルから、グリス(約 3 g)を注入してください。(グリスは別売品です)



●ブレードの調整

⚠警告

ブレードの調整の際には、必ず手袋をし、手や顔などに直接ブレードが触れないようにしてください。
けがの原因になります。

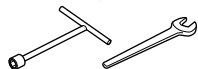
- 注**
- すき間が狭すぎると：
ブレードの動きが悪くなり、摺動部が焼き付くことがあります。
 - すき間が広すぎると：
切れ味が悪くなります。

ブレードはボルト (5 本 (CH 24EAP)、6 本 (CH 24EBP)) でブレードガイドに取付けられています。これらのボルトは、ブレードの動きをスムーズにさせるため、すき間を持たせて締付けられています。

ブレードのすき間は、下記の要領で調整してください。

すきま調整には、お手持ちのボックススパナまたはスパナ (8 mm) と、六角棒スパナ (4 mm) を使用します。

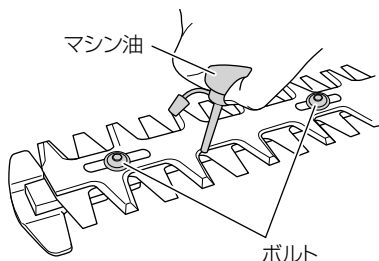
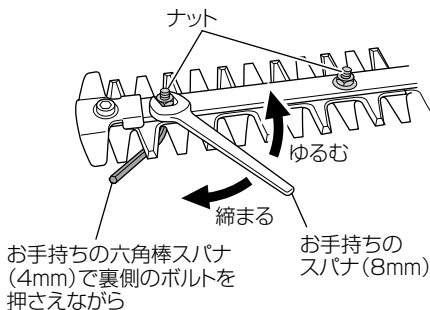
ボックススパナまたはスパナ 8mm



六角棒スパナ 4mm



- ① ナットをゆるめます。
- ② ボルトをいっぱい締付けた後、3/8 回転戻します。
- ③ この 3/8 回転戻した位置でボルトを固定したまま、ナットを締付けます。
- ④ 調整後、摺動部にマシン油を注油してください。



※本体を裏返して摺動部にマシン油を注油

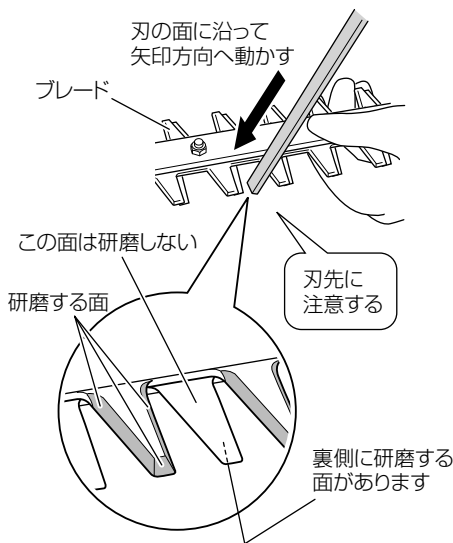
● ブレードの研ぎ出し

注 ●ブレードは水洗いしないでください。
さびや故障の原因になります。

●ヤニとりスプレーをご使用になる場合、ヤニとりスプレーにはプラスチックを溶かすものがありますので、本体にかからないように注意してください。

鉄ヤスリを矢印の方向へ動かして粗とぎして、油トイシで仕上げます。

- ① 中目または細目の鉄ヤスリを使います。
- ② 油トイシは機械油（自転車油など）を塗って研ぎ出します。
- ③ ブレードの刃の裏側に出た返りをトイシで軽く取り除きます。



ブレードの研ぎ出し時期

刈込む草木の種類や使い方、使用期間などで異なりますが、目安として年に一回はブレードを研ぎ、いつでも切れるようにしてお使いください。

● ブレードへの注油

刈込みにより刃先についた樹液などは、機械油（または自転車油など）を注油し、布でふきとってください。

● 機体の点検

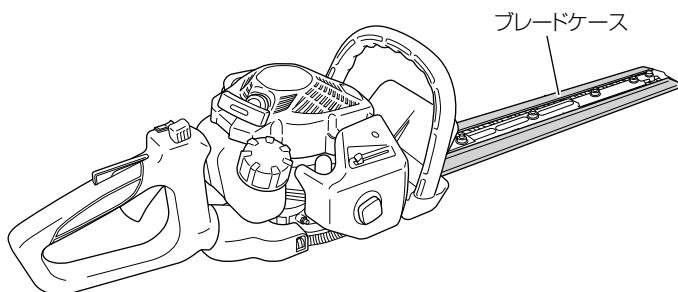
各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。
ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。
異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

● 清掃する

石けん水に浸した布でふいてください。ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用がありますので使わないでください。
ヤニとりスプレーをご使用になる場合、ヤニとりスプレーにはプラスチックを溶かすものがありますので本体にかからないように注意してください。

保管方法

- 各部を十分に清掃し、金属部にはさびないように2サイクル専用オイルを薄く塗ってください。
- 長期間 (1 か月以上) 保管するときは、燃料タンクから燃料を抜き取ってから自然に停止するまで空運転し、気化器の中の燃料を完全になくしてください。
- 点火プラグをはずし、プラグの穴から少量の2サイクル専用オイルをシリンダーに流し込み、スターターハンドルを数回引きオイルが行き渡るようにしてください。点火プラグをもと通りに取付けてください。
作業時に、油滴等が飛び散ることがありますので、保護メガネ等で目を保護してから作業してください。
- スターターハンドルを引っ張って、圧縮のあるところ (重くなったところ) で止めてください。
- 損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。
- ほこり、湿気のない乾燥した、また温度が 50℃ 以上にならない場所に保管してください。
- 子供の手の届かない安全な場所に保管してください。
- 燃料は屋内の火気の心配のない、冷たい乾いたところに、ガソリン専用の容器にいれて保管してください。古くなった燃料は故障の原因となりますので使用しないでください。
- ヘッジトリマを移動、保管する場合は安全のため、必ず付属のブレードケースを取付けてください。



故障診断

警告

- 修理に使用する部品は必ず指定の純正部品を使ってください。
- 点検の際は、必ずエンジンを止めて機体が冷えた状態で行ってください。

注 「故障診断」で対応できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

状 況		原 因	対 策
エンジンがかからない	【燃料関係】	燃料タンクに燃料がない、または少ない	混合比 (25 ～ 50 : 1) の燃料を入れる
		燃料タンクに古い燃料が残っている (異臭)	新しい燃料に交換する
		燃料を吸い込みすぎて、点火プラグが濡れている	1. 点火プラグをはずし、乾かす 2. スターターハンドルを5～6回引いて余った燃料を出す 3. 点火プラグを装着する「点火プラグ」参照 4. チョークレバーを運転 (開) の位置にして、スターターハンドルを引く
		燃料フィルタにごみがつまっている	燃料フィルタを掃除する
		燃料パイプが折れ曲がっているまたは、はずれている	燃料が流れるようにする
		気化器の不調	販売店に相談する
	【電気系統】	ストップスイッチのリード線がショートしている	販売店に相談する
		点火プラグが汚損している	交換または掃除する
		点火プラグのギャップが広い	0.6 mm に修理する
		高圧コードと点火プラグの接続が悪い	接続を直す
		電気系の異常	販売店に相談する
	【その他】	マフラーの排気口にカーボンがつまっている	販売店に修理を依頼する
エンジンはスタートするがすぐ停止する 停止しそうになる	【燃料関係】	燃料タンクに燃料がない、または少ない	正しい混合比 (25 ～ 50 : 1) の燃料を入れる
		燃料タンクに古い燃料が残っている (異臭)	新しい燃料に交換する
		2 サイクル専用オイルが混合されていない	販売店に相談する
		チョークレバーが始動 (閉) の位置になっている	チョークレバーを運転 (開) の位置にする
		燃料系統に空気が混入する	燃料パイプや継手の接続を直す
		気化器の不調	販売店に相談する

状 況		原 因	対 策
エンジン は スタートするが すぐ停止する 停止しそうに なる	【電気系統】	点火ミス	
		● 点火プラグの不良	新品と交換する
		● 電気系の異常	販売店に相談する
	【その他】	エンジンのオーバーヒート	
		● 点火プラグの番手違い	指定品に交換する「仕様」参照
		● シリンダーまわりのごみづまり	掃除する
		エアクリーナーの汚れ	掃除する
	カーボンづまり（マフラー排気口）	掃除する	
	圧縮不足（ピストン、ピストンリング、シリンダー）	販売店に相談する	
異常振動が出る		ハンドル、ハンドルブラケット、その他の締付け部のゆるみ	チェックして増し締めする
		ブレードの曲がり、または損傷	販売店に相談し、新品と交換する
		ギヤケース内のグリース消耗	グリースを補充する 「ギヤケース」参照
		ブレードのすき間が大きい	すき間を調整する 「ブレードの調整」参照
エンジン は かかっているが ブレードが動かない 動きが悪い		ギヤの異常	販売店に相談する
		ブレードのすき間が小さい	すき間を調整する 「ブレードの調整」参照
		ブレードの曲がり、または損傷	販売店に相談し、新品と交換する
		ブレードのすき間に異物が挟まっている	異物を取り除く
		ブレードに樹液がたまっている または錆びている	ワイヤブラシなどで取り除く
ブレードの切れ味が 悪い		ブレードのすき間が大きい	すき間を調整する 「ブレードの調整」参照
		ブレードのが摩耗している	● やすりやトイシで目立てする ● 摩耗がひどいときは販売店に相談し、新品と交換する
		能力以上のせん定作業をしている	「作業する（上手な庭木の刈方）」参照
エンジンが停止しない		ストップスイッチの異常	● チョークレバーを始動（閉）の位置にして、エンジンを停止する ● 直ちに使用を中止して、販売店に相談する
スロットルを戻すと エンストする		アイドリング回転数が低すぎる	● アイドリング回転数を調整する 「気化器」参照 ● 販売店に相談する
スロットルを戻しても ブレードが動き続ける		アイドリング回転数が高すぎる	● アイドリング回転数を調整する 「気化器」参照 ● 販売店に相談する
		スロットルワイヤの遊びがない	販売店に相談する

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 **0120-20-8822**

※携帯電話からはご利用になれません。

携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。

お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部	●北陸支店
TEL (03)5783-0626	TEL (076)263-4311
●北海道支店	●関西支店
TEL (011)786-5122	TEL (0798)37-2665
●東北支店	●中国支店
TEL (022)288-8676	TEL (082)504-8282
●関東支店	●四国支店
TEL (03)6738-0872	TEL (087)863-6761
●中部支店	●九州支店
TEL (052)533-0231	TEL (092)621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取することで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



エンジンヘッジトリマ保証書

形名	CH 24EAP(50ST) CH 24EBP(62ST)	保証期間	本体：1 年 (付属品は除く)
----	----------------------------------	------	--------------------

※お買い上げ日		年	月	日	製造番号	
※お客様	お 名 前					
	ご 住 所	〒				
※販売店	住 所	〒 電話 ()				
	店 名					

※印欄に記入のない場合は無効となりますので必ずご確認ください。

保証期間内に取扱説明書などの注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本書記載内容にもとづき無料修理いたします。お買い上げの日から上記の期間内に故障した場合は、商品と本書をお持ちいただき、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

- 保証期間内でも次のような場合には、有料修理となります。
 - (イ) 使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
 - (ロ) お買い上げ後の衝撃、落下あるいは移動、輸送などによる故障または損傷。
 - (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障または損傷。
 - (ニ) 保管の不備およびお手入れの不備による故障または損傷。
 - (ホ) 本書の提示がない場合。
 - (ヘ) 本書に形名、お買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合あるいは字句を書き換えられた場合。
 - (ト) 一般使用以外（例えば業務用など）に使用された場合の故障および損傷。
 - (チ) 付属品、別売部品や消耗品類の場合。
- 本製品の故障などに伴う二次的損害に対する保証はいたしません。
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保存してください。
- ご転居、ご贈答品等で本書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼にならない場合には、取扱説明書記載の営業本部または、支店にお問い合わせください。

- この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
(This warranty is only Japan)

工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南 2 丁目 15 番 1 号 (品川インターシティ A 棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)